

☆総合防災訓練☆

本日、総合防災訓練を、授業中に震度５強以上の地震が発生したことを想定して実施しました。すぐーる配信や引取下校訓練等ご理解・ご協力ありがとうございました。今後も、ご家庭でも万ーに備え、集合場所や約束などを話し合っておいてください。

☆開校(創立)記念式☆

本校は、昭和２７年９月１日に二俣川小学校の分校として創立し、授業を開始した９月９日を創立記念日としています。来年度は７０周年を迎えます。４日(金)の開校記念式では、希望小の歴史やはじまりにちなんだクイズを通して、母校への愛情を養う取組を行います。

☆大縄集会☆

７月３日（金）に、大縄集会を実施しました。各クラスで目標を決め、本番まで取り組みました。本番では、ペア学年同士で応援したり、励ましたりする姿が見られました。今回の大縄集会で気付いた「成果や課題」を次に生かせるように、各クラスで取組を進めていきます。

☆児童支援専任から☆

児童支援専任は、子どもたち同士の問題解決やいじめ・暴力の未然防止の取組の推進、登校支援の中心的役割、スクールカウンセラー（ＳＣ）・スクール・ソーシャル・ワーカー（ＳＳＷ）と連携しての教育相談活動の窓口、地域・幼保小中・児童相談所・警察・区役所・療育センター等との連携の窓口などを担っています（本校では、水野雄介教諭が担当）。お子さんが、安心して学校に通うために、何かございましたら、いつでも学校へご連絡ください。

☆横浜子ども会議☆

７月２１日（火）に「いじめをしない、させない、見逃さない ～つながる、広げる、いじめの未然防止の輪～」というテーマの下、南希中ブロック会議（南希中、善部小、希望小）が行われました。８月２８日（金）には、旭公会堂で旭区の各小・中学校の代表による会議が開かれました。希望小からは、高学年の代表者４名が参加しました。いじめの種は意外と身近にあることに気付き、どうすれば未然防止ができるのか活発な意見交換が行われました。学んだことを学校全体に広げてみんなが笑い合える学校をつくっていきます。

☆スクール・ソーシャル・ワーカー（ＳＳＷ）

学校での困りごとを抱えている子どもと家庭を支えるのが、スクール・ソーシャル・ワーカー（ＳＳＷ）で、「福祉」の専門職です。不定期ですが、月に１回程度来校しています。スクール・ソーシャルワーカーの方と面談を希望される方は、児童支援専任が窓口となっています。何か気になることがございましたら、学校へご連絡ください。

☆スクールカウンセラー（ＳＣ）来校日

４日（金）９：３５～１６：１５ １４日（月）９：３５～１６：１５
相談を希望する方は、児童支援専任または副校長へご連絡ください。
045-391-0117

☆スクールゾーン対策協議会☆

７月１日（水）に関係機関・自治会会長・校外委員・学校関係者が集まり、本校の図書館でスクールゾーン対策協議会を開催しました。スクールゾーンの危険箇所等を確認し、改善要望を提示しました。今年度は６つの改善要望が提示され、警察署や土木事務所などから回答がありました。児童の安全のために、保護者・地域の皆様にも、できる範囲での登下校の見守りにご協力お願いします。



きぼう

２０２６年９月１日

横浜市立希望ヶ丘小学校

「助けて」「困った」「どうしよう」とちゃんと伝えることができますか
～頑張る力よりも大切な受援力～

学校長 大平 はな

夏休みを終え、静まり返っていた学校に子どもたちの笑顔と元気な声が戻ってきました。「学校の真ん中は子ども」ということを改めて実感しています。登校後、すぐに「早く友達に会いたいな」「これから学校の勉強、もっと頑張るんだ」と元気よく話しかけてくれる子どもがいる一方で「少し元気がなさそうだな」「何か心配ごとがあるのかな」といった表情を浮かべて登校する子どもがいました。もしかしたら、心の中では、「もうちょっと休みたかったな」「学校に行くのがしんどいな」と思っていたのかもしれませんが。それは決して特別なことではなく、誰にでもある自然な気持ちです。夏休み明けのこの時期は、生活リズムの変化や心身の疲れ、残暑の影響などで、気持ちが不安定になりやすい時期でもあります。周囲からは元氣に見えていても、「頑張らなければ」「迷惑をかけたくない」と自分を奮い立たせている子どもほど、実は心の中に疲れや不安を抱えていることがあります。

ある高校野球の指導者が、こんな言葉を話していました。

「頑張ることだけがすごいんじゃない。しんどいときに『助けて』と言える人が本当に強いんだ。」

私たちは、つい「最後まで頑張ること」を美徳として考えがちです。しかし、本当に大切なのは、一人で抱え込まず、必要なときに周囲を頼ることなのではないでしょうか。

困ったときや苦しいときに、自ら助けを求めたり、支援を受け入れたりする力を「受援力（じゅえんりょく）」と言います。社会が複雑化し、価値観が多様化する中で、子どもたちが健やかに成長していくためには、「頑張る力」と同じくらい「助けを求める力」も大切だと言われています。子どもたちには、「困ったときは先生や友達、おうちの人に話していい」「助けを求めることは決して弱さではない」ということを繰り返し伝えていきたいと考えています。

これから様々な学習や行事が始まります。時には立ち止まりたくなることもあるでしょう。そんなときは無理をせず、誰かに「困った」「助けて」と伝えてみてください。助けてもらいながら前に進むことも、大切な成長の姿です。ご家庭におかれましても、お子さんの表情や言葉、日頃の様子の変化に目を向けていただき、登校できたこと、あいさつができたこと、学習の準備ができたことなど、一つひとつの頑張りを認め、励ましていただければと思います。